

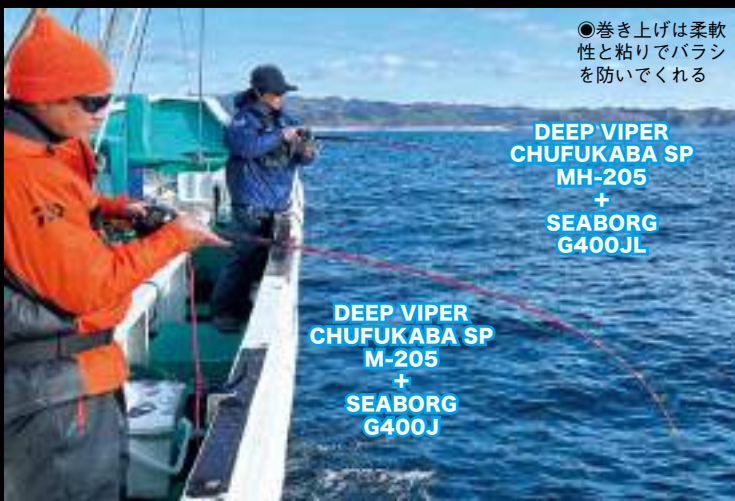
# 自由に誘い粘りで獲る粘強ソリッド中深場専用竿 ディープバイパー中深場SP

▶ M-205とMH-205の2タイプ

●粘りと強度の高密度グラスソリッド採用の中深場スペシャルロッドの誕生。グラス総糸巻き仕上げの本体には3DX、X45を適所に配置してグラスソリッドの食い込みのよさ、クッション性を残しつつ、軽量化と操作性、感度アップも実現した。しなやかな調子とパットパワーはバラシ防止、大型魚への対応も万全。アカムツはもちろん、キンメ、ムツ、青物などにも対応。3月発売予定。



▲スレッド色などデザインを一新  
▼パット部はVIPERの文字が浮かび上がる



DEEP VIPER CHUFUKABA SP  
M-205 + SEABORG G400J

DEEP VIPER CHUFUKABA SP  
MH-205 + SEABORG G400JL

●巻き上げは柔軟性と粘りでバラシを防いでくれる

アイテム	全長 (m)	総数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷 (号)	カーボン 含有率 (%)	適合 グラブ	メーカー希望 本体価格 (円)
M-205	2.05	1	165	410	1.4/17.9	80~250	29	M	105,000
MH-205	2.05	1	165	465	1.6/19.7	100~300	29	M	107,000

## アカムツと好相性 シーボーグ G400J/JL

シーボーグ400Jをベースにさらなる耐久性を実現。ハイパワー設計で中深場の釣りや青物などに最適。発売中  
●ギア比6、自重600g、最大ドラグ力16kg、巻糸量PE3号500m、4号400m、メーカー希望本体価格123,000円



▲左右ハンドルを用意



◀「スピード表示設定にして分速60メートルを超えないように巻き上げるのがおすすめ」と福田さん

## 余裕の大容量 スーパーリチウム 12000WP

大容量リチウムイオンバッテリー。発売中。  
●容量12Ah、メーカー希望本体価格78,000円(充電器なしは68,500円)

●「今回の釣りでは1メモリ使うかどうかです」と福田さん。深場釣りにも安心の大容量



▲電源スイッチ搭載

## 使い勝手のいいクーラー タフトランクGU4300

頑丈、堅牢、タフボディのクーラー。大型キャスターとサイドハンドル付きで持ち運びも楽らく。発売中。  
●容量43L、メーカー希望本体価格47,700円



▲アカムツパワーKPフックを採用した快適赤ムツ仕掛けKPSS  
▼ハリ穴が広がってもバラにくい

シャープなアタリが訪れる。「ここですっきりと合わせることを。」と北本さん。 「ほぼ2人同時に巻き上げを開始。中間層で度たびアカムツらしきたたきが見えてとれる。乗り感と引きから二人ともアカムツを確信したようだ。上がってきたのはサイズは少し物足りないものの開始早々に本命をゲット。潮回りをしつて再び投入する。水深はやはり300メートルちよつと。二人が使用するリールはパワーと耐久性に優れた「シーボ」

## 動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

「この竿は釣り人を助けてくれますよ。青物にも使ってみよう」と北本さんが言えは、福田さんは「感度だけでなくパワーと操作性が両立した竿です」と感想を語ってくれた。

「魚が掛ければ柔軟性があるのでこのくらい海なら置き竿でもほぼバレません」と、この竿の持つポテンシャルを証明してくれた。

「だれかに食べばチャンス言葉とお祝い福田さんにもヒット。今回はあえて置き竿にして巻き上げる。」

「この竿は釣り人を助けてくれますよ。青物にも使ってみよう」と北本さんが言えは、福田さんは「感度だけでなくパワーと操作性が両立した竿です」と感想を語ってくれた。

「PE3号を50メートル巻けるのでこの水深のアカムツ釣りでも安心です」

「次は掛けたのは北本さん。M-205がきれいに曲がり込む。あまり軟らかい竿だと合わせが効かないことがあるけど、この竿はしっかりと合わせが効くよ」とロッドの仕上がりに「満悦の様子。」

「G400J」だ。このサイズで左右ハンドルを選べるのはうれしい。 「PE3号を50メートル巻けるのでこの水深のアカムツ釣りでも安心です」

一方、M-205を使用する北本さんにも何かアタリがあった。「これは違う魚のアタリですね。この水深なのに思った以上にアタリが鮮明なのは驚いたよ。まだエサが2つあるはずなので、そのままアカムツを狙います」と言った直後にアカムツらしき

▲「想像以上に感度がいいです」と福田さん

▶乗り感を感じながら巻き上げ

グラスソリッドの恩恵を存分に享受!

★サイズには恵まれなかったが、二人はしっかりと狙いどおりの釣りを展開した

# 北本茂照、福田豊起 深場のアカムツを攻略

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.91

# アカムツ最前線

at 外房天津港出船

●アカムツをメインとした中深場釣りのスペシャルティロッドが登場した。今回は北本茂照、福田豊起の両氏が外房から水深300メートル前後のアカムツを狙った。グラスソリッドのパワーと粘りだけではなく、その感度にも感心しきりだった。そんなロッドの実力とは?



アカムツ釣りで重要なのは様々なアタリを判別する感度のよさ、誘いと合わせの効く操作性のよさ、アカムツをバラさない巻き上げ中の粘り強さなどだろう。今回はバイパーシリーズ初の中深場モデル「ディープバイパー中深場SP」でアカムツを狙うため外房天津港より出船。航程20分ほどの水深300メートルでスタート。

「このエリアはピンポイントでアカムツを狙います。1尾掛かったら周りにもまだいる可能性が高いので、ほかの人もチャンスです」と福田さん。福田さんが使用するのは操作性をより重視したMH-205だ。

「この竿はグラスソリッドですが、総糸巻き仕上げでカーボンにも劣らない感度があります。今はモタレを感じてそのあとにググッと入り込んだので合わせました」

一方、M-205を使用する北本さんにも何かアタリがあった。「これは違う魚のアタリですね。この水深なのに思った以上にアタリが鮮明なのは驚いたよ。まだエサが2つあるはずなので、そのままアカムツを狙います」と言った直後にアカムツらしき